

生涯学習だより②8

■お問合せ
生涯学習課(内線 72232)
— Life Long Learning —

※Life Long Learning＝生涯学習

「中学生が生涯学習課へ職場体験学習に来ました」

笠間中学校の2年生2名が、夏休み中、職場体験学習として生涯学習課が担当している全国こども陶芸展の事業に参加しました。

全国こども陶芸展は、陶芸を通して自由な創造力を発揮する場として、市内の子どもたちに限らず全国からたくさんの応募があります。生徒たちは、入選作品を茨城県立陶芸美術館に展示する作業に参加しました。小学生や同じ中学生の力作にとっても驚いている様子で、作品を壊さないよう慎重に作業をしていました。普段見ることのできない美術館の裏側を知ることができ、貴重な体験となりました。



展示作業を体験中

～家庭教育の充実をめざして～

子育てに無関心な親、子育てに不安や悩みを持ち孤立している親が増えている現在、家庭での教育力の向上が叫ばれています。

そこで、笠間市では市内の全小・中学校、幼稚園、保育園、保育所ごとに、親・保護者が家庭教育学級を組織し、自主的に活動しています。

家庭教育学級は、子どもたちの健やかな成長と豊かな人間形成のため、親・保護者が相互に学ぶ場・機会であり、とても大切な事業の1つとなっています。

親が親として育ち、親の役割や家庭のあり方を再認識するなど、子育てに関する内容を各学校等で実施しています。



家庭教育講話の様子

市長コラム

「賢明な国民」

巷の世間話、噂話に耳を傾けています。移動中の電車の中、飲み処、サウナ、市内外の行事などで、いたる所で聞こえてくるさまざまな声。時節柄の話題や最近の出来事、仕事、家族、趣味等・・・友人や同僚、家族との会話からは、飾らない本音の聲が聞こえてきます。

最近では、尖閣諸島の件に端を発した日本外交のふがいなさ、「建前論ばかり、本当の事を言え」と強い口調のご意見あり。そして国内に話題が移ると、まずは「トップの顔が見えない」検察庁。「検察官の正義とは？」

我々国民とは別世界のようだ。」国民にそう思われる組織でいいのだろうか、と思います。

また、検察審査会での小沢一郎氏への議決、その一方で意外な小沢人気、良しも悪しきも小沢氏の話題は絶えないものです。

今年のノーベル賞受賞者の鈴木さんと根岸さんは、一つの事を50年も研究し続け、今回の受賞となりました。「日本の化学は世界一、まだまだ日本人は捨てたもんじゃない。やはり1番でなければ、2番ではだめだ。」耳をすませ聞き入っていると、面白いご意見もあり、関心するご意見もあり、ほとんどがごもっともな、常識のご意見ばかりです。

そして、最後は必ず教育議論。「最近の若い人は・・・」「俺達の頃はもっと厳しい教育だった。」戦後教育の問題についてなど、1つ1つがごもっともな話です。

国民はやはり賢い。行政・政治は、賢明な国民の声をどう聞いて生かしていくのか・・・身近で難しい課題です。

笠間市長

山口伸樹



ふるさとまつり in かさま (10/23)